

浜松市モビリティサービス推進 コンソーシアム

第2回会議

Digital Smart City HAMAMATSU

令和2年8月28日





- 1 開会
- 2 共同幹事挨拶
- 3 会員の申込状況
- 4 MaaS構想の中間整理（案）
- 5 浜松市内のモビリティ関連のプロジェクトについて
- 6 アイデアソンについて
- 7 意見交換
- 8 閉会

2 共同幹事挨拶

Digital Smart City HAMAMATSU



- 浜松市
デジタル・スマートシティ推進事業本部長 朝月 雅則
- 遠州鉄道(株)
経営企画部長 野村 和徳
- スズキ(株)
コネクテッドセンター 本社担当 部長 熊瀧 潤也

会員の申込状況

- 一般会員42団体からの申込（令和2年8月26日時点）。
- 令和2年5月27日時点の27団体より、一般会員15団体が新規会員に。

No.	法人名	No.	法人名
1	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	11	富士フイルム株式会社
2	株式会社エフ・シー・シー	12	BOLDLY株式会社
3	株式会社コモニー	13	株式会社三井住友銀行 浜松法人営業部
4	静岡県浜松土木事務所	14	株式会社望月自動車商会
5	scheme verge株式会社	15	ヤマト運輸株式会社 浜松主管支店
6	株式会社スマートドライブ		
7	須山建設株式会社		
8	株式会社ティアフォー		
9	株式会社デンソー		
10	株式会社東海理化		

4 MaaS構想の中間整理（案）



背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。
- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められている。
- 「Withコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められている。

活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市/交通至便）
- 市民・企業のやまゝいか精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積/スタートアップグローバル拠点都市）

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、“繋ぐ”ことで価値を増幅し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。

必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点3：しなやかに繋がる

利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

MaaS推進の考え方

持続可能な地域を支えるモビリティサービスや取組例

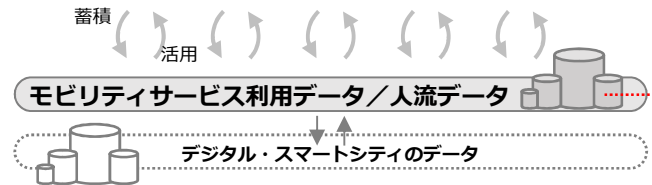
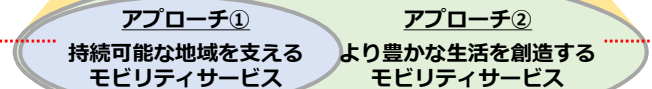
“交通・生活課題”の解決や“安全・安心”な暮らしの確保

- 自家用車を使った乗り合いの促進（自家用有償旅客運送等）
- 異なる交通手段の連携や一体的運用・運営
- 遊休モビリティ資産の活用
- 移動診療や移動販売
- 移動や人流データの活用・見える化（公共交通の効率化、アプリ活用など）

市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

多様な暮らし方（多様性） 市民・企業の共助/共創（助け合い） ものづくり力（クリエイティビティ）



より豊かな生活を創造するモビリティサービスやの取組例

移動負担を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進

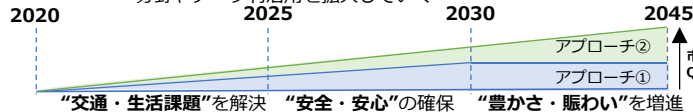
- 自動運転車の活用（移動時間も楽しく）
- デリバリープラットフォーム構築
- 多拠点生活用サブスクMaaS（関係人口向けの移動環境）
- 商業や観光施設等の連携（クーポン、ポイント、サイネージ…）



データ活用にあたっての検討事項

- デジタルスマートシティの取組と連携し、データ活用ルールを整備

ロードマップ：交通・生活課題の解決から取り組み、モビリティ×サービスの連携分野やデータ活用を拡大していく



推進体制：市民・企業の主体的参加で創造性の高いエコシステム形成



■ 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム
同コンソーシアムを中核とし、官民共創による地域課題解決や地域活性化に資するサービスやソリューションを創出します。



浜松版MaaS構想

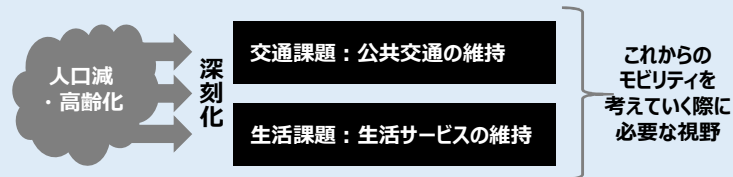
中間整理（案）

Digital Smart City HAMAMATSU



浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。

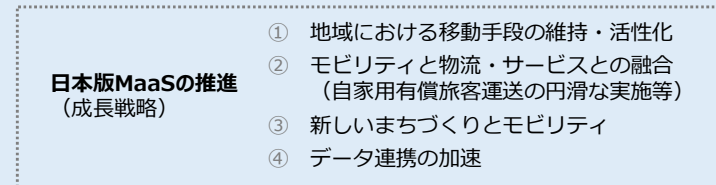


- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ利活用等でMaaSの取組との連携が求められている。

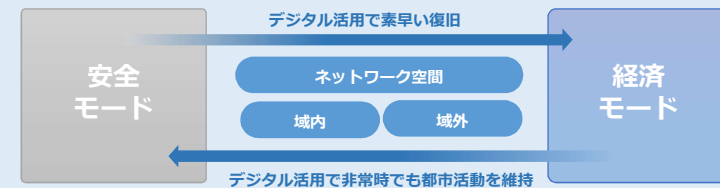


関連動向

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。



- 「Withコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められている。



交通領域にとどまらず市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた新たな発想のMaaSが求められている。新発想のMaaSを実現するための指針やルールを、交通領域にとどまらない様々なプレイヤーと共有、共創するため「浜松版MaaS構想」を策定する。

II. 構想に活かすべき本市の強み

構想策定にあたっては、本市ならではの強み（リソース）を活かします。

強み①

多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる自然環境（国土縮図型都市）。
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境。



強み②

市民・企業のやらまいか精神や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心（シビックプライド）が、オープンなイノベーションの土壌に。



強み③

ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップグローバル拠点都市でもある。大企業～スタートアップの共創・創発が生まれやすい環境。



Ⅲ. 構想の目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、“繋ぐ”ことで価値を増幅し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。



例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた田舎暮らし
- ◆ 大都市圏との二拠点生活

必要な視点2 ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の設置

必要な視点3 しなやかに繋がる

- 利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

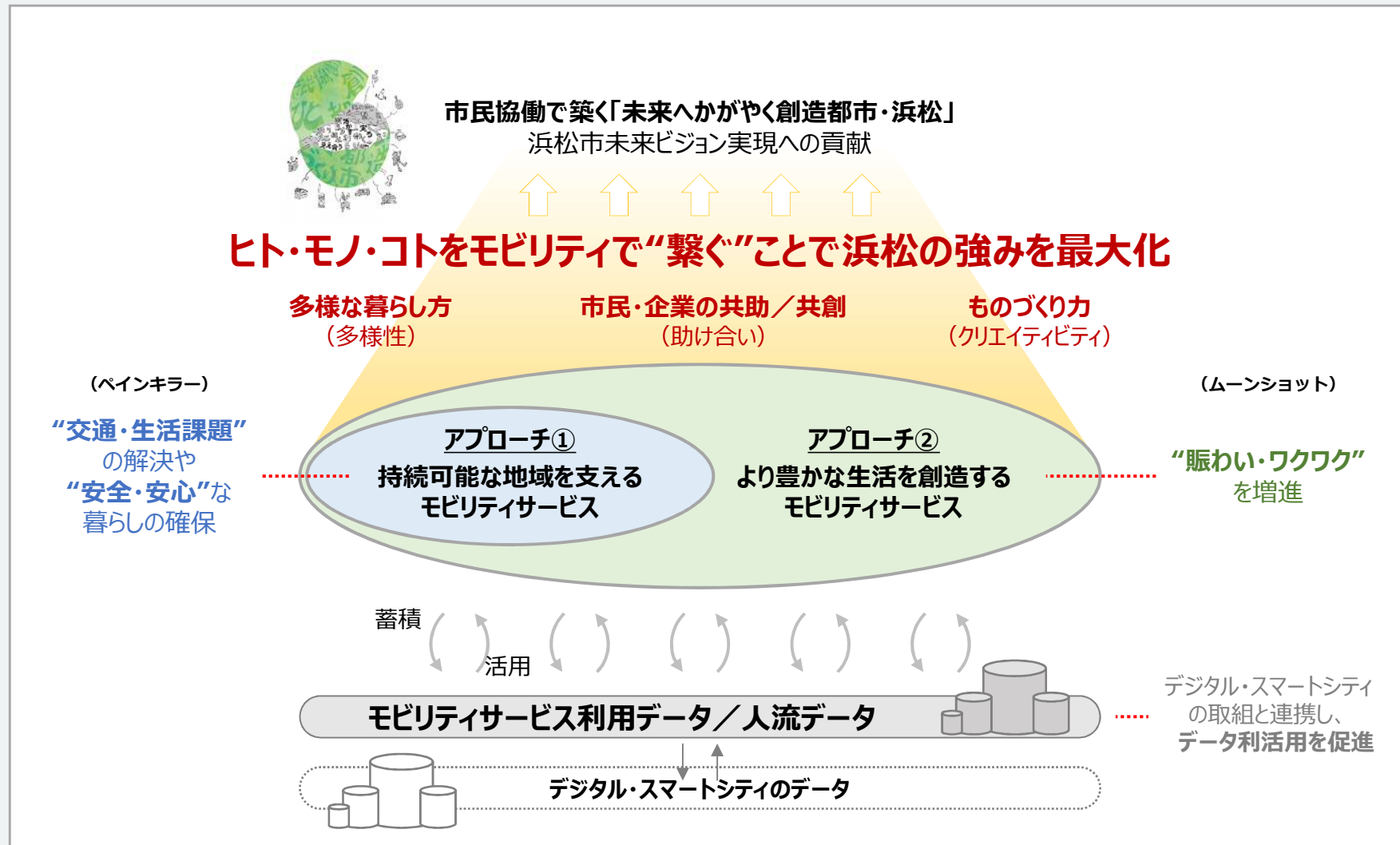


例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）
- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も包括的に

IV. MaaS推進の考え方

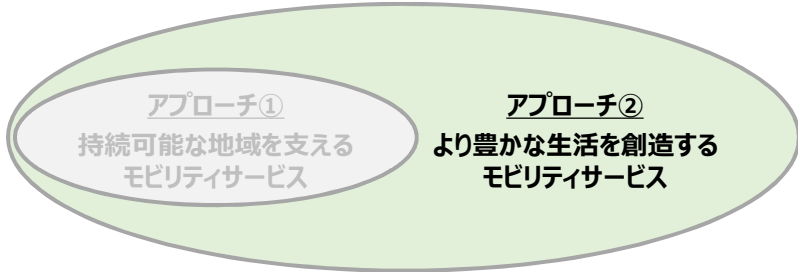
喫緊の課題への対応（ペインキラー）と、未来へのチャレンジ（ムーンショット）の2つのアプローチを組合せ



持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取組イメージ）



より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取組イメージ）



“賑わい・ワクワク”を増進



家においても本場のレストランの味や様々なサービスを楽しめる。
パンデミックでも飲食店等のデュアルモードをサポート。

フードデリバリープラットフォーム構築



商業施設との連携

移動履歴データを元に、クーポンを配信したり、サイネージにリコメンド情報を表示。ポイントシステム等との連携も促進し、地域を活性化。

自動運転車の活用

自動運転で移動の車中も車窓からの景色や映画など、楽しみがアップ。忙しいときは、移動中もリモート会議。



観光資源との連携

点在している観光資源もモビリティで繋がることで活性化。
異なる移動手段と観光施設がセット価格で利用できお得で安心。



Withコロナ/ポストコロナ時代は、リモートワーク等の普及で、生活拠点をマルチ化する人が増加。

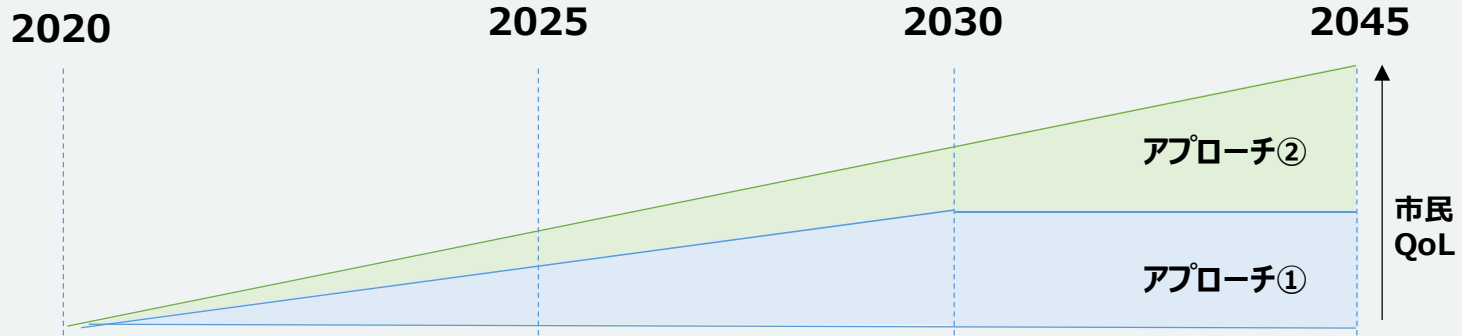
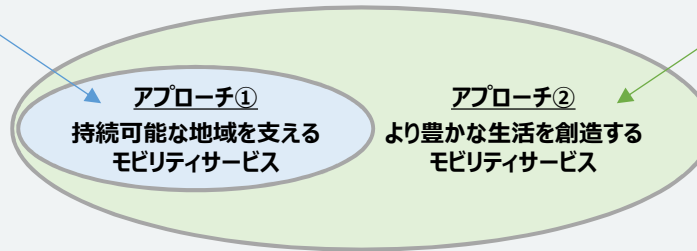
自然に囲まれた環境でストレスフリー。

宿泊施設、新幹線、市内の移動もセット価格（サブスク）でお得で安心。

多拠点生活用サブスクMaaS（関係人口向けの移動環境）



交通・生活課題の解決から取り組み、モビリティ×サービスの連携分野やデータ利活用を拡大していく



“交通・生活課題”を解決

“安全・安心”の確保

“豊かさ・賑わい”を増進

自家用車を使った乗り合いの促進
(自家用有償旅客運送等)

遊休資産の活用

移動販売

移動診療

デュアルモード社会づくりへの貢献

観光資源との連携

商業施設との連携

自動運転車の活用

市民・企業の主体的参加で創発性の高いエコシステム形成



エコシステム形成の中核施策

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム



同コンソーシアムを中核とし、官民共創による地域課題解決や地域活性化に資するサービスやソリューションを創出します。

共同幹事	浜松市、遠州鉄道株式会社、スズキ株式会社
アドバイザー会員	MONET Technologies株式会社
一般会員	設立目的に賛同し、共にモビリティサービスの社会実装を目指す会員

段階的に導入していく施策例

市民参加の促進

市民ワークショップの開催や、市民×企業の共創を促進するクラウドファンディングなどの促進。



情報発信

浜松版MaaSの取組（PoC等）について、市内外に向けて積極的に情報発信。



5 浜松市内のモビリティ関連のプロジェクトについて



■プロジェクト名称

中山間地域における医療MaaS推進 ※経産省採択プロジェクト

■実施団体

浜松市、浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム、（一社）磐周医師会、仁成堂 小澤医院、MONET Technologies(株)、ソフトバンク(株)、(株)杏林堂薬局、(株)トラジェクトリー、(株)博報堂

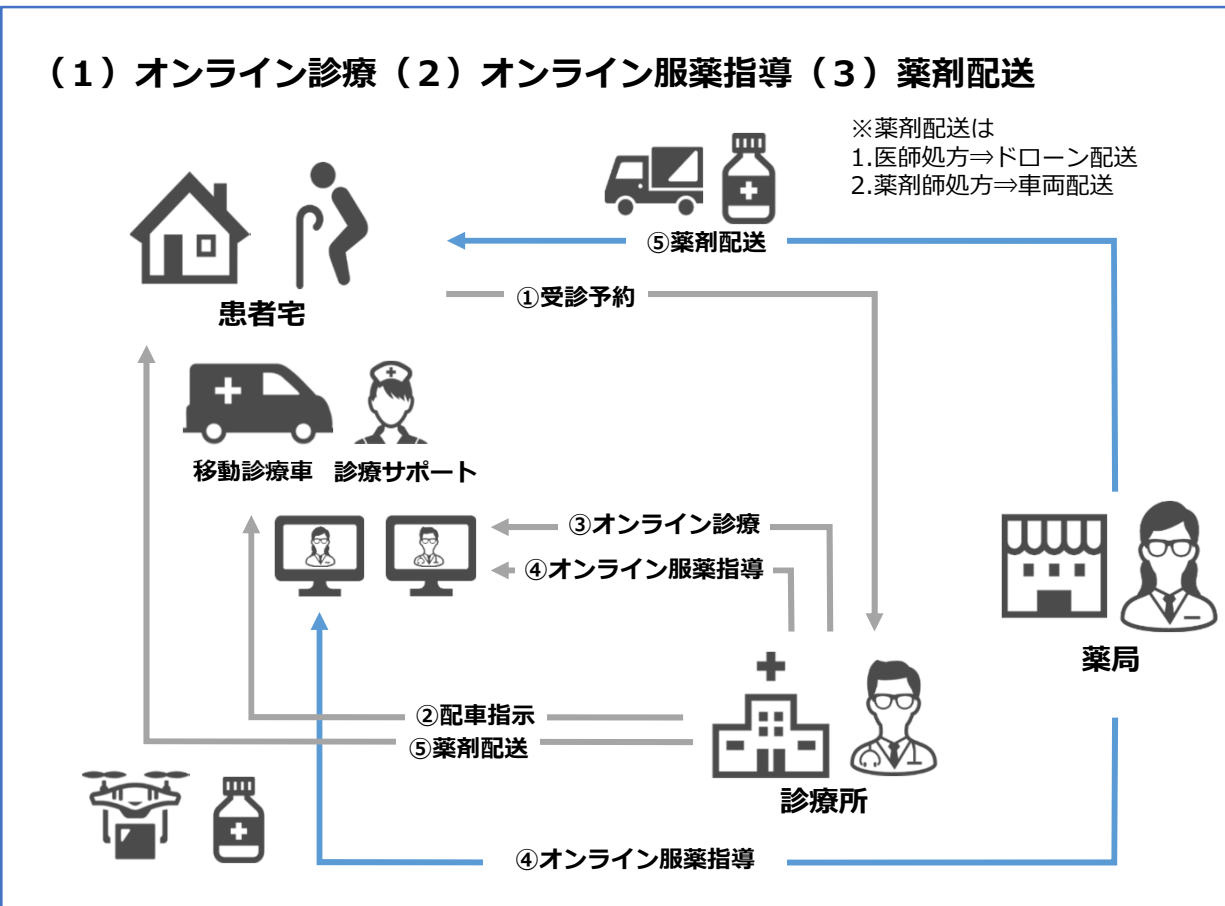
■背景・目的

◆天竜区の課題
浜松市のなかでも高齢化が進行している中山間地域の天竜区（高齢化率約42%）では、高齢者の通院困難、医師不足、診療所の経営危機に直面している。

◆目的
医療資源の乏しい中山間地におけるオンライン診療とオンライン服薬指導、薬剤の配送の運用面や採算性の検証を行う。

◆実証概要
往診患者を対象に移動診療車を用いてオンライン診療を実施し、またオンライン診療を受診した患者に対して、診療所の医師やドラッグストアの薬剤師と連携してオンライン服薬指導を行い薬剤配送を実施する。

■概要



■プロジェクト名称

浜松市佐久間地区MaaS実証実験

※国交省採択プロジェクト

■実施団体

NPOがんばらまいか佐久間、浜松市、TIS(株)（★幹事社）、クレメンテック(株)

■背景・目的

◆MaaSの提供により解決したい地域の課題

既存の地域公共交通に利便性の課題があり、山間部の道路事情（急カーブ、狭い幅員）が厳しい地域では交通弱者が「安全・安心して利用できる」「移動したい時に速やかに乗車ができる」移動手段が必要。

◆実験概要

NPOがんばらまいか佐久間が運営するタクシー運行業務にITを活用したMaaSプラットフォームと電気自動車を導入し、利便性向上と運行業務の合理化、佐久間地区に設置した太陽光パネルで発電した電力を利用しエネルギーの地産地消を行う。

◆交通手段と連携するサービス

利用者全員へ用途限定の地域ポイントを発行。地域内の店舗や施設を訪れることでポイントがもらえる仕組みで、地域活性化に繋がるものと想定。

■概要

再生エネルギーを活用した、過疎地域の交通弱者支援による地域の活性化

ご紹介映像→<https://www.tis.jp/special/ISOUPROJECT/>

2019年 北海道・厚沢部町でPoC実施

2020年 静岡県・浜松市天竜区佐久間地区でPoC実施予定

ISOU PROJECT



浜松市内で実施している（又は実施予定）モビリティ関連のプロジェクト

Digital Smart City HAMAMATSU

■プロジェクト名称

官民のデータの統合的分析とその利活用プロジェクト

■実施団体

scheme verge 株式会社

■背景・目的

静岡県や浜松市などの公共機関に限らず、県内人気のレストランチェーンである「さわやか」などの民間事業者は、当該地域に関する多種多様なデータを独自で持っている。これらのデータを統合し、利活用を推し進める事で、今後、モビリティ分野を含んだデータ駆動型のまちづくりを可能とする大きなポテンシャルを有していると考えている。一方で、官民が独自で保有しているデータはいまだに統合された形で利活用されていないのが現状である。

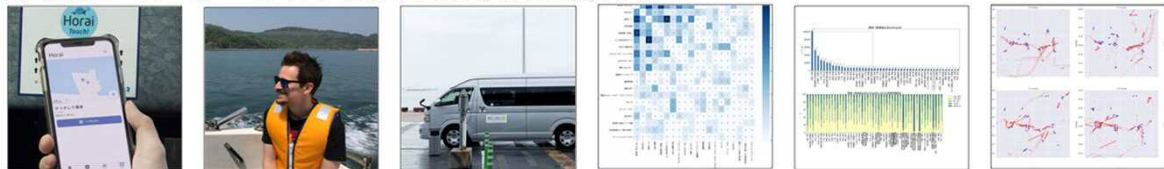
本プロジェクトでは、地域の潜在ニーズを検証しデータ利活用のシステムやビジネスモデルの設計・実証を行うため、官民のデータを統合した上で分析を実施する。

■概要

本プロジェクトにて、官民が有する既存データの分析・解析と利活用手法のデザインを統合的かつアジャイルなプロセスを通じて実施する。その第一手として、既存データ分析に関しては、行政のみならず地元事業者およびその他民間事業者が有するモビリティや地域のコンテンツに関わるデータの統合的な分析を行う。これにより、地域内の移動等にかかる潜在ニーズを検証することができる。その結果、事業者側は、統合されたデータを使用した事業戦略の立案・実施、自治体側は、政策立案への適応および立案に際した民間事業者との事業連携促進を進められる。

既存データの分析等に関して、具体的には、①浜松市、静岡県が保有する人口や施設立地等のオープンデータ、②交通系の民間事業者がICカードによって収集した公共交通の乗降データ等、③非交通系民間事業者が有する店舗のリアルタイムの空き状況等のデータ統合を想定している。

長期的には、本プロジェクトで得られた統合的データの分析を元にコンシューマー向けアプリケーションの開発を想定している。また、分析結果を(交通関連および非交通関連)事業者にフィードバックするシステムを構築することで、民間事業者のDX推進をサポートし、運営負担・オペレーション負担の軽減等を目指す。



NFC決済、海上タクシー、デマンド送迎等と連携

位置情報やアプリ利用データを活用し需給最適化

20

6 アイデアソンについて



浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム
アイデアソンに関するご報告

2020年8月28日

株式会社博報堂

アイデアソン概要

アイデアソンの趣旨・目的

- ・市民の生活の質を向上させる新しいモビリティやサービスアイデアの創出と、プロジェクトの具現化
- ・参加企業様同士の意識共有や関係構築による、コンソーシアムの創発性の向上

実施概要

実施体制 主催 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム、浜松市
受託者 株式会社博報堂

開催日時 インプットセッション：8月20日（木）9時30分～12時00分 ※実施済
第1回：9月3日（木）13時15分～17時15分
第2回：10月12日（月）13時15分～17時15分

会場（予定）第1回：オンライン（Zoom）での実施
第2回：クリエート浜松2階ホール（浜松市中区早馬町2-1）

参加企業（10社） 伊藤忠テクノソリューションズ(株)、SBテクノロジー(株)、(株)エフ・シー・シー、遠州鉄道(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、東京海上日動火災保険(株)、凸版印刷(株)、(株)日立ソリューションズ、不二総合コンサルタント(株) ※50音順



全体プログラム概要

参加者同士の意識共有・関係構築を図りながら、**共創型でアイデアを生み出すプログラム**



8月20日@オンライン (Zoom) インプットセッション

コンソーシアム参加企業様から合計30名、浜松市様・博報堂合わせて総勢42名が参加。

The screenshot shows a Zoom meeting in progress. On the left, a presentation slide titled "類似化されているMaaS" (Similar MaaS) is displayed. The slide content is as follows:

類似化されているMaaS

すでに類型化されているMaaSがあり、それらは一般的な形が存在する。

	地域特性	地域課題
都市型 MaaS	<ul style="list-style-type: none"> 既存交通サービスが充実 鉄道利用が多い、狭い道が多い 移動ニーズは多用 	<ul style="list-style-type: none"> 移動ニーズの多様化 日常の交通渋滞や混雑電車 イベントや災害時の突発的な混雑 訪日外国人増加
地方型 MaaS	<ul style="list-style-type: none"> 交通サービスが少なく自家用車依存度が高い 地域内や近隣都市への生活交通が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車への過度な依存 公共交通の事業採算性低下 地域交通の衰退 交通空白地域の拡大 高齢者の移動手段確保 運転手不足
観光型 MaaS	<ul style="list-style-type: none"> 分散して存在する観光スポットと多様な観光ニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の主要産業として観光産業活性化 訪日外国人の急増 既存公共交通の混雑
医療 xMaaS		<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う医療機関の逼迫 病院の待ち時間延長、病床不足
保接 xMaaS		<ul style="list-style-type: none"> 自家用有償旅客運送事業者のドライバー不足

On the right side of the Zoom window, a grid of 15 participants is visible. The participants are identified by their names and affiliations:

- B・山田聡・博報堂 (Top center)
- D・山田聡・博報堂 (Top right)
- 松岡英人・東海理化 (Row 2, left)
- A・瀬尾保俊・博報堂 (Row 2, middle)
- D・不二総合コンサルタント (Row 2, right)
- E・友井大輔 (CIC伊藤) (Row 3, left)
- D・日下部・CIC伊藤 (Row 3, middle)
- A・小林真司・近鉄鉄道 (Row 3, right)
- 浜松市役所 DSC本部 (Row 4, left)
- 藤井聖也・スズキ (Row 4, middle)
- C・伊藤航・近鉄鉄道 (Row 4, right)
- A・西浦充徳・スズキ (Row 5, left)
- 下川隆器・博報堂 (Row 5, middle)
- B・山下 好志・Hitachi SO (Row 5, right)

At the bottom of the Zoom window, there is a footer with the text "※国土交通省「地域別公共交通計画」(2019)" and "資料は機密を要します".

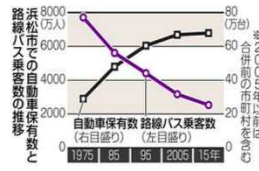
8月20日@オンライン (Zoom) インプットセッション

浜松市の都市課題・交通課題 by 博報堂

主な交通課題 (詳細)

過度な自動車利用の抑制

- 交通環境が自動車中心へ偏重しており、自動車交通量の増加に伴う道路渋滞の発生、歩行者や自転車の安全確保の低下が課題となっています。
- 全国二十政令市のうち、浜松市は、人口10万人当たりの人身交通事故件数が十一年連続でワースト。交通事故総合分析センター (東京) が2017年3月にまとめた報告書は「日常生活の自動車利用の割合や高齢者の免許保有率が高い」と指摘しています。
- 過度な自動車利用を控え日常生活への転換を促進できる交通環境づくりが求められています。



◆2019年11月の人口10万人当たりの人身事故件数 ※小数点以下切り捨て

順位	都市 (件)	順位	都市 (件)
ワースト5		ベスト5	
1	浜松市 757	1	新潟市 170
2	静岡市 571	2	川崎市 173
3	北九州市 542	3	広島市 199
4	福岡市 449	4	京都市 200
5	名古屋市 372	5	横浜市 204

資料：中日新聞記事

MaaS最新事例紹介 by 博報堂

ヘルシンキ：SmartCityのモビリティ：MaaSに見る「人」中心の交通政策 - 1

実際に稼働している時間はわずか5%に過ぎない*自動車ではなく、人を中心に据えた交通政策の推進。



MaaS Global社が提供するサービスWhim



whim MaaSはフィンランドのヘルシンキ市で導入された。MaaSの導入により、ヘルシンキ市の交通はより人中心になり、環境にも優しいものになる。

- ヘルシンキの中心企業「MaaS」の導入により、ヘルシンキ市は、世界初のMaaS都市として知られている。
- 利用者は、Whimのアプリを通じて、さまざまな交通手段から最適なものを検索し、予約、乗車、決済まで一括して利用することが可能。
- Whimが提供する交通手段には、乗車やバスなどの交通機関のほか、民間タクシーやシェアリング、個人の車や自転車などがあり、スマートフォンでのアプリ画面から簡単に予約が可能。
- フィンランドの首都ヘルシンキは、現在の人口約65万人、国内人口の約半数への移動や海外からの移住などにより人口は増加中で、2050年には80万人になるとの想定が、ヘルシンキ市の都市計画の前提となっている。
- 都市では、自動車が増える傾向があり、都市交通の混雑、渋滞、地域内では、環境問題、交通渋滞、騒音などの課題が生じている。MaaSの導入は、交通環境の改善、ヘルシンキ市においてMaaSの導入が実現している。

実施主体・協力団体など

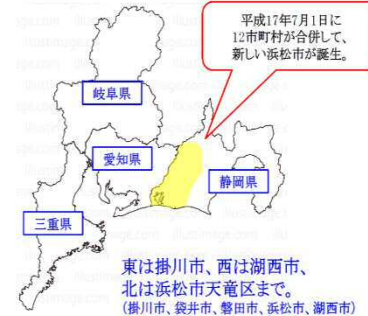
- ITプラットフォーム：主要企業、タクシー協会、民間企業など100以上の団体・組織が参加。MaaS不可欠なオープンデータ・オープンAPIのプラットフォームも開発・整備も行う。
- プラットフォーム推進体

目的・効果・期待効果など

- 人口増加の緩和、さらには都市圏のインフラ更新の必要性に対する対応。

交通事業を取り巻く「壁」 by 遠州鉄道様

①遠州鉄道の概要 (交通系・運行エリア)



東は掛川市、西は湖西市、北は浜松市天竜区まで。(掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、湖西市)

事例紹介 - 変革のための取組 - by MONET Technologies様

取り組み例：春野地区 医療MaaS



2014年～天竜区における地域医療実態調査

春野地区における医療持続の課題が最も深刻

1. 通院困難
2. 医師不足
3. 地域医療の継続

- 医師会より解決策につき提言が出されたが、持続性の観点で実施困難
- 医療従事者、交通事業者 (含NPO)、行政など個々の対応では限界アリ

浜松市の進行中MaaSプロジェクト紹介 by 浜松市様

浜松市内で実施している (又は実施予定) モビリティ関連のプロジェクト

プロジェクト名称: 浜松市 食のデリバリープラットフォーム構築事業【Foodelix (フードリックス)】

実施団体: (株)こころ、(株)日本チャル、(株)サンロフト、遠鉄タクシー(株)、I&Aシア・ラボ(株)

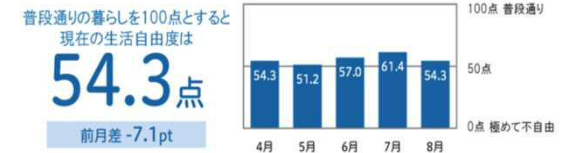
調査目的: 外食・中食・内食へのシフト。コロナの影響により、新たな生活スタイルの進化により、食生活においても、外食が中食・内食へと変遷しつつある。

概要: Foodelixは、食のデリバリープラットフォームの構築を通じて、ユーザーの生活の利便性を高め、地域経済の活性化を図ることを目的としている。

With/afterコロナの生活者潮流 by 博報堂 生活総合研究所

新型コロナウイルス影響下での「生活自由度」

【質問文】新型コロナウイルス感染拡大以前の普段の状態を100点、感染拡大により極めて不自由を強いられる状態を0点とすると、あなたの現在の暮らしの自由度は何点くらいでしょうか？



※数値は小数第2位まで集計していますが、本レポートでは小数第1位まで(小数第2位を四捨五入)を表示しているため、点数差は見た目の数値と異なる場合があります。

8月20日@オンライン (Zoom) インプットセッション

インプット後、短い時間でしたが、参加者から活発な意見・感想が飛び交いました。



「課題と聞くとマイナスではあるが、課題をプラス・ワクワクに換えていきたい。」

「浜松は、生活・観光・仕事が揃っている街であることが魅力的。新しいサービスを導入するには最適の地」

「新しいモビリティサービスを利用してもらうには、ワクワクするような体験（CX）をいかに作るかが重要」

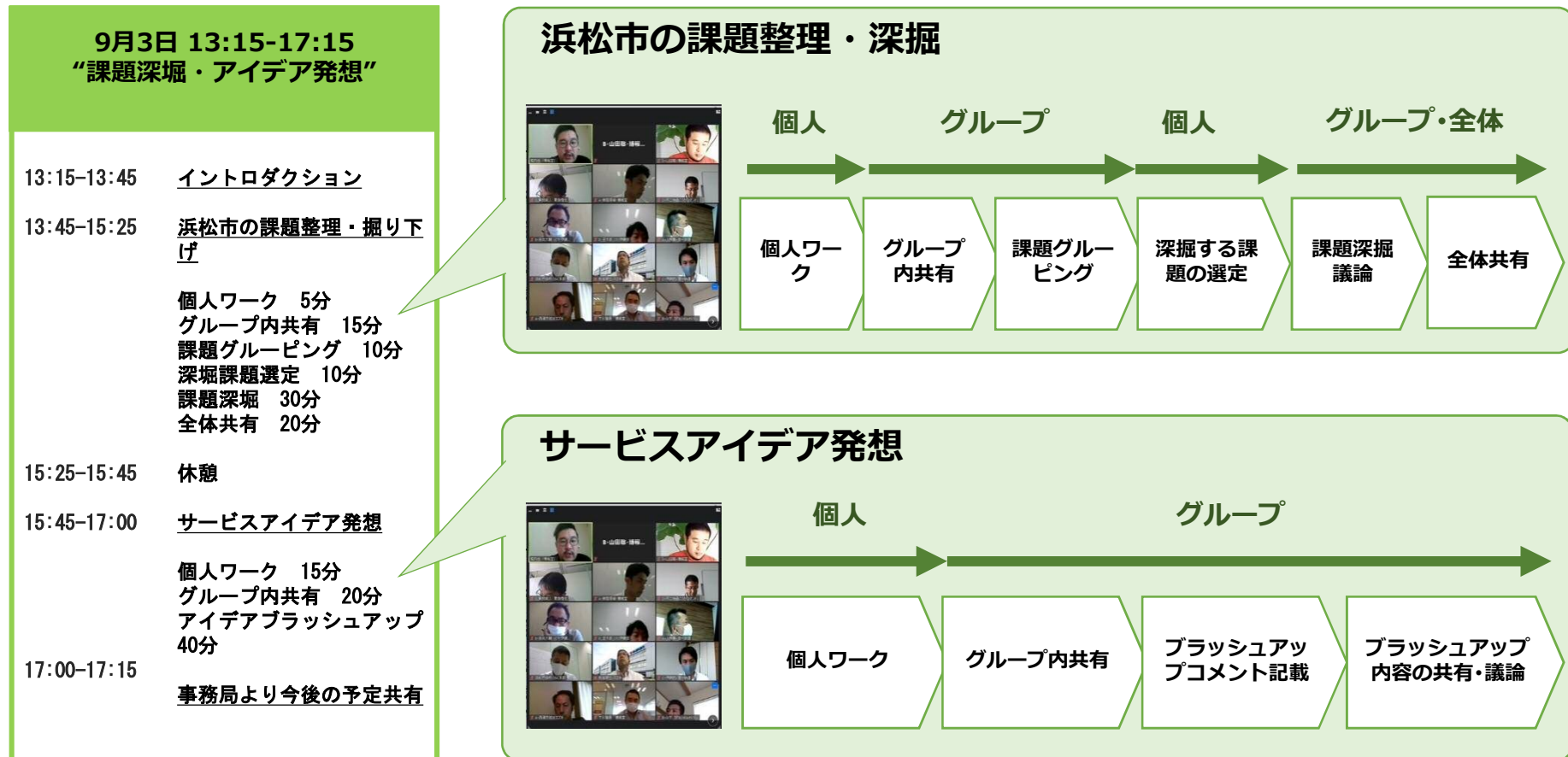
「交通の課題を超えて、“人と人をつなぐ”“人をモノをつなぐ”ことが必要と考えている」

「浜松市は、官民一体となった取組ができるエリアだと認識した。」

「コロナ禍を受けて状況が変わる中、生活者視点を持って解決していくことが大切」

次回 9月3日（木）午後 課題深堀・アイデア発想プログラム

Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を活用し、
共創・創発しながら「課題の深堀」「サービスアイデア発想」をおこないます。



7 意見交換

